

## 東日本大震災支援活動「今私たちができること」

—アルミ缶・牛乳パック回収の収益金を義援金に & 節電対策（グリーンカーテンプロジェクト）—

長野県上田市立川辺小学校 教諭 片田 保幸

e-mail アドレス katada-yasuyuki@school.umic.jp

キーワード：児童会活動、動画&音楽編集、インターネット調べ学習、環境教育、小学校

### 1. はじめに

現代の子ども達の持っているICT技術は非常に高い。改めてパソコン学習をセッティングしなくても、子ども達は、授業や家での自主学習で、必要な時に必要な情報を集める、情報を整理して提言を図ることが抵抗感なく進められる。また我々教師以上に、パソコンのメリットやデメリットを感じていると考えられる。よって、我々教師は、「ICTをどう教えるか」と構えるのではなく、「子ども達のニーズに応じたICT使用の環境作り」について積極的に考えることが必要でもある。例えば、実際に教室でパソコンを開くだけで、手元にデジタルビデオやカメラを用意するだけで、子ども達はその様々な活用方法を提言できる。教室で、1台のパソコンから大型テレビで確認していくだけでも、動画&音楽編集の実践へつながった。今年度の活動も、そんな構えで様々な活動を増やすことができた。

### 2. 学習のきっかけ（学習の流れ）

昨年、5年生の担任としてお米作りの活動を進め、ニュース番組&CM作りに挑戦した。その結果、マイタウンマップ・コンクールで「農林水産大臣賞」を受賞した。さらに今年、6年生として児童会活動を引き継ぎ、全校を含めて「東日本大震災支援」について取り組む場面につながった。「自分達の力でできる活動はないか」この思いを胸に、アルミ缶&牛乳パック回収による売上金を義援金として被災地へ送る活動がスタートした。少しでも多くのアルミ缶&牛乳パックを回収する方法を話し合い、地元ケーブルテレビ局でPRニュースを流す、5,000枚を超える手作りのチラシを地域に配布する、1年生にも分かる児童集会を開く、横断幕を使って呼びかける、震災の被害実態調査をまとめるといったPR作戦が進められた。その結果、3ヶ月で11万円を超える義援金が集めることができ、岩手県大槌北小学校へ届けることができた。これには、「義援金をどの団体へ送るか」「送られてきた義援金はどう活用されるのか」子ども達が進んで調査学習を進め、上田市社会福祉協議会の方々の紹介もいただけた。さらに無駄なエネルギーを減らすために、「節電月間」が企画され、「グリーンカーテン作り」の活動もうまれた。温度効果の検証、窓際の花壇復活、収穫したゴーヤを給食で使っていただく、様々な相乗効果が確認できた。また「信州環境フェア」や「上田市青少年育成市民会議」で自分達の活動を発表すること、運動会の組体操の中で協力してくれた地域への感謝の思いを組み入れること、壁新聞コンクールに応募するなど、より広い提言ができる活動が進められていった。

### 3. 実践事例（学習過程）

#### (1) ニュース番組作りの実践(平成22年4月～)

**【ビデオカメラ デジタルカメラ 動画編集用PC】**

昨年度、5年生の担任として、国語と社会の授業の発展から、ニュース番組作りが進められた。ディレクターやアナウンサー、コメンテーターやカメラマンなど、様々な役割に分かれ、絵コンテによる構想から台本作り、舞台装置作りやパネル作成、学級全員による番組編集会議も行われた。大型テレビとビデオカメラを教室にセッティングするだけで、教室はテレビ局にひけをとらない場所にかえることができた。

28人の学級で、4人ずつ次の7つのテーマに分かれ、お米ニュース番組作りが進められていった。

- ①お米栽培カレンダー(手作業から機械の有効性)
- ②田んぼにすむ微生物調査(農薬問題を考える)
- ③雑草対策とヒエの拡大問題(田植えの意義)
- ④かかし作りとスズメ対策(スズメ減少問題調査)
- ⑤猛暑による米栽培問題(背丈の高さ 粽殻の厚さ)
- ⑥田んぼに広がるよりよい環境と生物多様性問題
- ⑦日本の食糧生産問題(食糧自給率向上を考える)

#### (2) アルミ缶&牛乳パック回収(チラシ作りの挑戦)

**【PC、プリンター、WORD文書編集、画像処理】**

多くの地域の方々から協力を得るために、よりよいチラシ作りへつながる情報交換が盛んに行われた。パソコンから活動写真の取り出し、WORDによる文字



写真1 横断幕での呼びかけ

編集も教室で行える体制を整えたが、「心をこめて伝えたい」「手書き感を残したい」という意見があふれ、1枚1枚のチラシへ色鉛筆による色つけ、グラフなど震災の被害状況掲載、分かりやすい活動写真や目に留まるイラストの挿入、パソコンにはない手書きの良さが確認でき、工夫を凝らしたチラシを作ることができた。

チラシに「どの団体へ義援金を送ったらいいか」送付先情報を呼びかけたこともあり、地域の方々から多くの反響が寄せられた。また子ども達のコメントや活動の様子を、地元ケーブルテレビとともに放映する、児童集会を企画して全校に呼びかける、毎朝道路に手作りの横断幕を掲げて呼びかける、チラシ以外のPR方法が子ども達のアイデアから生まれ、多くの形で呼びかけが広められた。

### (3) 活動に伴うインターネット調査学習の実施

【PC 教室「YAHOO きっず」インターネット調べ学習】  
 「〇〇について調べよう」というインターネット調べ学習をあえて行わなくても、「よりよい支援金送付先は?」「大槌北小の復興を祈るために作り上げる千羽鶴の意味」といった子ども達から導き出された活動テーマは、「インターネットを使って調査学習を行いたい」という、必要観に迫られた調べ学習が位置づけられた。家でも進んで調べてくるなど、子ども達自身が手がかりを要求し、インターネットを使うよりよいタイミングが設定されることが大事だと考えられる。

収益金の高まりとともに、「支援金をどのように送付するか?」この話し合いが積極的に進められた。テレビ局から新聞社、各団体に、「日本赤十字社か中央共同募金会以外の送付先はないのか?」といった質問を、電話やメールを通じて行うものもできた。これは、自分達が集めた支援金をより必要とされている場所へ送りたいという思いがあったと考えられる。その結果、上田市ボランティアバスで現地に向かう方々や社会福祉協議会の方々と出会い、大槌北小学校の友達との交流につながった。さらに、支援金と一緒に顔写真入りのメッセージを送る、復興を祈って全校で千羽鶴作りを進める活動にも広がった。なお、夏休み明けには、大槌北小学校の友達からお礼の手紙も届き、避難所で生活や震災当時の状況などより深い実情も知ることができた。

### (4) 節電対策（グリーンカーテン作りへの挑戦）

【デジタルカメラ撮影 写真に対するコメント検証】  
 「全校で節電対策を進めたい」という思いのもと、ゴーヤと朝顔によるグリーンカーテン作りが提言された。さらにグリーンカーテンの有効性を全校に広く訴えるために、ゴーヤをイメージしたイラストの作成、よりよい景観をとらえる写真撮影、環境省主催による「グリーンカーテンフォトコンテスト」への応募活動も行われた。



写真2 グリーンカーテン

グリーンカーテンの効果を検証するための夏休み中の周辺温度調査、収穫したゴーヤを地域や保護者へ配布すること、給食の献立の豚キムチへゴーヤを使ってもらうなど、花広い活動につながった。さらに、荒れ地が花壇として復活させた価値、フォトコンテストに向けて写真とともにPR文章をみんなで確認できることも価値ある活動になった。

### (5) 地域へ支援金回収の感謝の思い

【大型テレビ デジタルビデオ 教室用PC】  
 運動会の中で、地域と一体となってアルミ缶＆牛乳

パック回収が行われた感謝を伝えるために、「組体操2011～絆～」の発表を行った。演技の意味やそれにつながるナレーション、絆につながるBGMの選定など、組体操の完成に向けて、子ども達と一緒に確認できた。

自分達の演技の練習場面をデジタルビデオで確認することで、「自分達の本気の姿が、地域や保護者の方々へどう伝わっているか」検証できるようになった。さらに、築き上げてきた支援活動への思い、地域との連携をあらわすために、選定されたBGMをナレーションとの調和を考えながら、フリーソフト「Sound Engine」により編集するなど、グランドだけでなく、教室での話し合いも進んで行われ、納得できる組完成をみんなで作り上げることができた。

### (6) 「環境」をテーマとした壁新聞&レポート作り

【PC教室 インターネット調べ学習 画像編集】

グリーンカーテン作りから地球温暖化対策への提言、牛乳パッククリサイクルからつながる森林保護、アルミ缶の何回ものリサイクル、自分達の行ってきた活動から、様々な調査学習やまとめが進められた。

「エコキッズ 2011」や「ECO 壁新聞」、「エコ絵日記」など、環境に関するコンクールはたくさんの団体で行われている。そんなコンクールに応募してみたいという子ども達の思いが強くあらわれ、個人やグループで活動がまとめられた。「30枚の牛乳パックからティッシュペーパー4箱が作られる」「7割強の紙パックが捨てられている現状」「ペットボトルキャップ回収から世界のワクチン購入費用が充てられていること」様々な情報を選択し、自分達の活動と照らし合わせて、環境学習が進められた。

## 4. まとめ（成果と課題）

支援金の送付先を検討する場面では、インターネットやメールを積極的に使った子ども達の主体的な調査学習が進められ、大槌北小学校と交流を深められたことが、有意義な活動になった。ICT機器も場面場面で有効に使われた良さもあったが、東日本大震災支援活動から地域と一体となってリサイクル活動ができたこと、節電対策として始まったグリーンカーテン効果からゴーヤ収穫につながったこと、様々な人と人との絆が持てたことが大きな価値であったと考えられる。また、大型プリンターを使って写真パネルを作成し、長野市での「信州環境フェア」や上田市の「青少年育成市民会議」で発表機会が持てたことも、貴重な経験となり、積み重ねてきた活動を見返し、パネルに合うコメントも考え合う学習も持つことができた。この東日本大震災支援は、復興に向けて、今後も長い時間が必要とされるはずである。この問題を風化させないことが、これから教育でも大事になってくると考えられる。子ども達とともに「今、私たちができることは何か」この問いを確認し続け、一歩一步できる活動を積み重ねていくことを大事にしていきたい。